

2026年度 第1回 理事会（現理事・監事） 議事録

日 時：2026年3月14日（土）10：45～12：50

開催方法：現地とZoomのハイブリッド開催（ホスト会場：学会事務所）

事務所出席者：6名

大西宏明理事長、吉田 博会計理事、森兼啓太総務理事、堀田多恵子、松下弘道各理事、野澤孝志会計顧問

Web出席者：13名

柳原克紀副理事長、増田亜希子、井上克枝、上原 剛、下澤達雄、山崎正晴各理事
志村浩己、中山智祥、伊藤弘康、末廣 寛、橋口照人各支部理事
諏訪部章、山田俊幸各監事

欠席者：3名

松下一之理事、高橋 聡、長尾美紀各支部理事

I 開会

大西宏明理事長より一言挨拶があり開催が伝えられ議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 2025年度事業報告、各種委員会報告（森兼啓太 総務理事）

2025年度事業報告、各種委員会報告がなされた。

3. 2026年（1-3月）各種委員会報告

1) 広報委員会報告（下澤達雄 担当理事、大西宏明 理事長）

臨床検査専門医が何らかの施設基準に加わらない限り、大学病院を除き、自治体病院で臨床検査専門医のみ保有する現役世代の医師が安定した職を得るのは今後難しくなっていくと考えられるため、臨床検査専門医をアピールできるよう、より良い方法を検討していくことの理事会への提議があった。当学会として、昨年、遺伝子関連検査精度管理医制度を制定したこと、公的なガイドラインなどで何らかの基準が設定されるように働きかけていくことが重要と認識された。

4. 第73回学術集会報告（千葉 2026/12/17(木)～12/20(日)、吉田博 会長）

2026年12月17日（木）～20日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、吉田博会長（慈恵医大）のもと、テーマ「プラネタリーヘルスへと進む新時代の医療～プラットフォームを担う臨床検査医学～」として、対面とオンデマンド併用で開催予定であり、越智小枝副大会長、政木隆博事務局長、運営事務局は（株）サンプラネットメディカルコンベンションが担当すること、演題募集期間は、2026年5月26日（火）～6月30日（火）予定であること、そして次項の企画を予定・検討していることが報告された。

シンポジウム、委員会企画、POCセミナー、Catch upセミナー、RCPC、特別講演、教育講演、会長講演、医学会連合加盟学会連携フォーラム（日本医療情報学会）、ICD講習会、一般演題（口演・ポスター）、共催セミナー（ランチョンセミナー、コーヒーブレイクセミナー）。

5. 第75回学術集会報告（2028年、高橋 聡 会長）（森兼啓太総務理事）

2028年に開催予定であり、今後、会期、会場、運営会社を選定予定との高橋聡会長よりのコメントが報告された。

6. 専門医関連事項について（大西宏明 理事長）

専門医関連事項について下記の通り報告された。

1) 2026年度専門研修プログラム専攻医は、プログラム制：7名、カリキュラム制：19名、合計26名である。

- 2) 2027年度専門研修プログラムの再申請、新規申請、変更申請は、4～6月を予定している。
- 3) 2026年度実施 第6回機構認定試験は、2026年8月9日(日)、東京慈恵会医科大学に於いて、越智小枝実行委員長のもと実施予定である。
- 4) 2026年度実施 第18回臨床検査管理医講習・認定試験は、2026年9月6日(日)、三井記念病院に於いて、金子誠実行委員長のもと実施予定である。
- 5) 昨年遺伝子関連検査精度管理医制度が制定され、2026年度認定として39名が申請されており、現在、臨床検査専門医・管理医審議会で審議中であることが報告された。

7. 本学会からの関連団体委員推薦について(更新)(大西宏明 理事長)

前回理事会(11月1日)以降に新たに当会から推薦された下記派遣委員等について報告された。

- 1) 中性脂肪学会 中性脂肪蓄積心筋血管症診断基準検討委員(外部有識者)(任期:2026/4/1～2027/3/31):吉田 博(慈恵医大)
- 2) 医療関連サービス振興会(任期:2026/4/1～2028/3/31)
衛生検査所専門部会 副部長、衛生検査所調査指導中央委員会 委員長:三宅一徳(順天堂大)
衛生検査所専門部会 委員:高木 康(元昭和大)

8. その他

・同学院について(大西宏明 理事長、橋口照人 同学院理事)

日本臨床検査同学院の2026年度の会議、資格認定試験、講習等の予定が報告された。

現在同学院の理事を務められている志村理事、橋口理事がいずれも今期で当学会の理事を退任される予定であるが、今後、両団体の連携をスムーズにするため、次期の同学院理事の交代の時には、当学会の理事を継続して推薦できるよう考慮することが了解された。

・日本膵臓学会からの提案について(大西宏明 理事長)

日本膵臓学会より、現在、PFD試験受注が停止しているが、慢性膵炎の診療、病態評価に必要なため、以前の受注会社であるBML等の検査会社に対して、PFD試験(PABA排泄率)検査受注再開依頼の要望書を、当学会、日本膵臓学会、日本消化器病学会の3学会連名で送付する検討依頼があったことが報告され、共同で要望書を発出することとなった。

III 審議事項

1. 2025年度計算書類について(吉田博 会計担当理事)

- ・貸借対照表の説明があり、学会の資産としては良好な状況である。
- ・一般会計は収支差額で約500万円のマイナスとなった。
会費収入、外販、広告収入が予算に比べて少なかった。遺伝子関連検査精度管理医関連および機構専門医更新のための代替試験関連収入が伸びている。
支出については、機関誌関連費用が増加しているが、ほとんど予算額以下で抑えた結果となった。
- ・特別会計、アジア交流基金は、特段の動きがなかった。
- ・学会賞基金は、例年の3社からの寄付金に加えて、故河合忠先生よりご遺志により河合忠副賞への寄付が200万円あった。副賞の支出はほぼ例年通りであった。
- ・71回学術集会(大阪、日野雅之会長)の収支では、当会からの補助金は100万円だったが学会へ収支差額の360万円強の繰り入れがあった。

以上、吉田博会計理事より報告がなされ、諏訪部章監事から、2026年3月3日に学会事務所において、山田俊幸監事とともに会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、会計報告書類の記載は合致しておりの確であると監査報告があり、2025年度に係わる計算書類について承認された。

2. 第72回学術集会概要会計報告(千葉2025/8/28(木)～8/31(日)、大西宏明 会長)

2025年8月28日(木)～8月31日(日)に大西 宏明会長のもと開催された第72回学術集会の会計概略報告があり収支差額が150万円強の赤字となったことが報告された。以前、補助金が500万円から100万円と変更された際の理事会で、資金が足りなくなった場合は学会から補填するとなっていたことにより、第72回学術集会の不足分については学会から補填することで承認された。

3. LMI 投稿規程について（大西宏明 理事長、吉田博 編集担当理事、下澤達雄 委員長、山崎正晴利益相反委員会委員長）

LMI の投稿規程についてコンサルテーション会社から、「If there is no institutional review board, authors must follow the alternate COPE guidelines on ethics approval.（もし機関の倫理審査委員会（IRB）がない場合、著者は倫理承認に関する代替の COPE ガイドラインに従わなければならない）」との文言を規程に追加することを推奨する旨のコメントがあった。本件については、編集委員会での意見をもとに、理事会でも了承された。

一方、LMI の COI については、現在、100 万円以上は記載義務としているが、コンサルテーション会社からは、透明性の観点から国際雑誌についてはすべての COI を申告することを義務付けた方が良いというコメントであった。本件については利益相反委員会で編集委員会と協議しながら検討いただくこととなった。

4. JLAC11 付番細則等に関する提案について（大西宏明 理事長、堀田多恵子 理事）

JLAC11 付番に関して、材料が付記されている測定物については材料名の無い測定物のみの名称とすること、およびこの内容を追記した「JLAC11 付番細則（案）」が提案され、承認された。今後も、付番ルールの変更等の重要な議題については理事会で承認を得て、それをもとに JLAC センターと検査項目コード委員会で具体的な作業を行っていく方針が確認された。

5. CAP への CAP-PT データ提供依頼文書について（大西宏明 理事長、堀田多恵子 精度管理委員会担当理事）

日本における CAP-PT の「日本ピアグループ」構築の可能性を検討するため、JSLM 関連施設の CAP-PT データについて、CGI が Internal Analysis（内部解析）用途として取り扱うことを、JSLM から CAP へ正式に依頼すること、その文面が提示され承認された。

6. タスクシフト／シェアに関する報告と今後の方向性について（大西宏明 理事長）

当学会からは、日本学術会議に連携会員を派遣しているが、学術会議の放射線・臨床検査・病理分科会から、タスクシフト／シェアに関する見解発出を計画しており、本学会にも打診があった。チーム医療委員会を中心に日本臨床衛生検査技師会の会長および実務担当者との面談を数回にわたり実施し、両会として可能な対応について検討してきた。

その結果、現時点では以下の方向でさらに検討を進めることで合意したことが報告された。

この内容を、学術会議の放射線・臨床検査・病理分科会に提案することが承認された。

① 日本臨床衛生検査技師会と共同で、共同声明のような文書を作成し、今年の学術集会前までに発出する。

② 臨床検査医におけるタスクシフト／シェアの認知度向上と、実際に取り組まれている事例に関する知見を共有する機会を設ける。例えば、学術集会において、日本臨床衛生検査医学会と日本臨床検査技師会との共同企画としてタスクシフト／シェアをテーマとしたシンポジウムまたはワークショップを企画するなどを考えている。

7. 2026・2027 年度役員について（大西宏明 理事長）

細則、「3. 役員等の選出に関する細則 第 6 章 役員選任に関する議案の作成、4. 理事長は、次期の理事および監事の選任議案を作成する。」により 2026・2027 年度役員について現理事会で承認を得るため、現理事長より 2026・2027 年度理事、監事の選任議案が提示され、承認された。

8. 第 13 回特別例会（大阪 2027 年）会長について（大西宏明 理事長）

先の理事会で、2027 年 4 月に大阪で開催される第 32 回日本医学会総会に合わせて開催予定の第 13 回特別例会の特別例会長の推薦を近畿支部に依頼していたことについて、近畿支部より三枝淳先生（神戸大）の推薦があったことが報告され、承認された。

なお、2027 年 4 月 24 日（土）、大阪市内でテーマを「Lab to Life;臨床検査が開く未来の医療」、事務局は山崎正晴先生として開催を予定していることが申し添えられた。

また、2027 年度会計予算で特別例会補助金が 150 万円と誤って立てられていたため、例年と同じ 50 万円と訂正がなされ了承された。

9. 第74回学術集會会期について（宇都宮2027年、森兼啓太 会長）

2027年11月、ライトキューブ宇都宮（栃木）において、森兼啓太会長（山形大）のもと開催を予定しているが、森兼会長から会期の短縮（日曜日に開催せず、木曜日から土曜日までの3日間とする）に関する提案があった。会期を短縮することで開催費用を縮減することが可能であり、また参加者の負担を軽減することにつながることで、ここ数年の学術集會において日曜日が午前中のみで開催でセッション数も少なく、金曜日や土曜日にセッションが開催されていない会場もあることから、日曜日午前中のプログラムを移して3日間で開催することは可能と3日間のプログラム案が提示され説明があった。重複する企画については、オンデマンド配信などで広く視聴できるようにし対応するなど、工夫したうえで開催いただくということで承認された。ただし、諏訪部章監事より、このような会期短縮については、慣例とはせず次回以降は状況に応じて検討いただきたいとの意見があった。

10. 機関誌作製での値上げについて（大西宏明 理事長、吉田 博 会計・編集担当理事）

機関誌製作委託会社の(株)宇宙堂八木書店より、諸経費の上昇に伴い、制作費の頁単価、カラー印刷費、作業実費、返品受取/保管・管理料、発送・搬入運送代、発送手数料、ガイドライン Web 管理費の値上げ、およびあらたに編集事務委託費と抄録集 Web 管理料を設ける等の要望があったことが報告された。ただ、値上げを行う前提として、査読などの対応でのクレーム、発送ミス、紙面での誤植などの改善を宇宙堂八木書店に求め、これに対応した内容を盛り込んだ業務改善および再発防止体制報告書が提示された。そのうえで、値上げした場合も隔月刊化に伴う効率化等により、来年度予算の範囲内となるようにしたい旨、言及があった。なお、ガイドライン作成でも問題なく進められるように注意していただきたいとの意見もあった。そのうえで、値上げを受け入れることで承認された。

IV 閉会（大西宏明 理事長、柳原克紀 副理事長）

大西宏明 理事長より、現役員体制が3月28日で任期となるが、これまでの学会の様々な対応における理事、監事のご尽力への感謝したいこと、また下記のような課題について、次期体制に引き継いでいきたいと一言挨拶があり、本理事会は閉会された。

- ・広報委員会で専門医リクルートWGを設置し、レジナビに参加して臨床検査専門医の広報とリクルートを行っている。現在の責任者は後藤和人先生が退任されるため、後任として、中前美佳先生に担当いただく提案があった。
- ・会員が減少していることがあるため、次期体制では会員や専門医を増やしていく方策の検討のため、委員会の枠を超えた検討の場を設ける必要がある。

以上

2026年3月16日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

議事録署名人

理事長 大西宏明 印

副理事長 柳原克紀 印

監事 諏訪部章 印

監事 山田俊幸 印